



# 利用者とスタッフがまるで家族のよう

## 介護老人保健施設 もみじの里

市街地にありながら、畑や山々が望める恵まれた環境の中にある鹿追町のもみじの里。入所サービスでは、少人数でのユニット制を採用。家にいる感覚で自由に過ごせる雰囲気がある。



### 温かい雰囲気あふれる家と同様に暮らせる場所

十勝の鹿追町にある介護老人保健施設、もみじの里。周囲に畑が広がる広大な自然の中にある介護老人保健施設だ。木の温もりと珪藻土の土壁がやさしい雰囲気を作り出し、歩いていて気持ちが良い。もみじの里の利用者は10もしくは12人の少人数グループ（ユニット）ごとに生活している。普段の生活や食事、行事などは基本的にはユニットごと。居室は個室となっているが、一歩外に出れば談話室や食堂があり、ユニット内の仲間と交流することができ、入浴をして、何時にトイレに行くなど、時間割はつきりとは決められていない。利用者のペースに委ねられているのだ。自分のペースで気兼ねなく生活ができるのが、もみじの里の特徴といえる。訪問したときも、テレビを見ながら利用者同士でおしゃべりに興じる人、スタッフと一緒に散歩をしている人、部屋で身体を休める人、部屋に備え付けられたウッドデッキで日なたぼっこをする人など、それぞれの生活を楽しむ姿が見られた。

### アイデアとヒラメキで利用者の笑顔を作る

「できるだけ利用者の方の希望に添えていきたい」と宮谷内さん。散歩に行きたい、買い物に行きたいなどというリクエストに、柔軟に対応できるようにしている。そのため、ひとつのユニットを担当するスタッフの数は比較的多いのだという。買い物に行くとなるとどうしても付きつきりになってしまう、時間がかかってしまうが、そういうときには他のスタッフが自然とフォローすることができているそうだ。それは、利用者のためになることが最優先という価値観が共有されているからだ。

行事や外出などはユニット単位で行われることがほとんどで、その内容はユニットの担当スタッフに委ねられている。利用者のことを一番分かっているのはユニットを

勤務をはじめ12年ほどになる木村暢哉さんは「家庭的なところがこの一番良いところですね。まるでひとつのユニットがひとつの世帯、家族みたいで。孫みたいな感覚で働いています」と話す。同じく勤務3年目の宮谷内咲さんも「短大生のときに実習で来て、利用者の人たちが自由に過ごしているのが印象的で、ここで働きたいと思っただけです。過ぎてしまえば、自分が年輪を重ねたときに、ここに入所したいと思えるような場所です。見た目や雰囲気が施設という感じではないところが良いです。すよね」と語ってくれた。「施設っぽくない雰囲気」。まさにそれがもみじの里の大きなコンセプトだ。ユニット一つひとつはまさに家族、親戚同士の集まりに近い。そして、利用者一人ひとりが集まった施設全体を見ると、まるでひとつの街を形成しているかのようだ。すべてが利用者の人たちが、家にいるような感覚で落ち着いてゆつくりと過ごせるように、そして塞ぎ込むことなく元気で健康に暮らせるようにという思いから。そのコンセプトが間違っていないことは、出会った利用者たちの笑顔が証明してくれている。

担当するスタッフだという考えからだ。担当者として定期的に会議を開きおまかな内容は決められるものの、その時の状況や雰囲気をより大切にしている。「天気が良い日は、みんなでソフトクリームを食べに行きましょう」と、その日に外出を決めたりすることもありますが、利用者たちが何を求めているかを察して、すぐに行動に移せることが、スタッフのやりがいにもつながっていくのだ。

木村さんは一緒に働きたい人はどんな人かという問いに、「アイデアやヒラメキを持つている人にぜひ来てほしいです。あとは元気で明るければ」と答えてくれた。仕事のやり方は入ってから覚えられるので心配いらないとのこと。大切なのは利用者のことを第一に考えられるかどうか。まるで家族と暮らしているかのような、人と人との繋がりを育てるのが介護福祉の仕事の魅力であり醍醐味なのだと思う。

介護福祉士  
(左)石田 美久さん  
(中)木村 暢哉さん  
(右)宮谷内 咲さん

石田さんは、もともと入所担当としてユニットを受け持っていたが、出産を機に時間に融通が利きやすい通所の担当となった。「子育てをしながらの仕事なので急に休むこともあるけれど、周りがフォローしてくれて助かっています。仕事では子どものことを忘れるくらい楽しんでます。

### 介護老人保健施設 もみじの里

〒081-0216 鹿追町鹿追北2線8-33  
TEL 0156-66-1185 FAX 0156-66-1184  
<http://www2.shikaoi-keiaikai.jp/momiji>



企業ページ

### 企業情報

#### 事業内容

- 入所サービス
- 通所リハビリテーション
- 短期入所療養介護
- 居宅介護支援事業所



ワークワークページ



1



2



3



4

- 理学療法士・言語聴覚士による一人ひとりの状態に合わせたリハビリテーションを実施。利用者どうしが楽しみながら時間を過ごす。
- 利用者の人たちと会話するのが何よりも楽しいと、木村さんは言う。担当外のユニットにも遊びに行くなど、利用者とのふれ合いを心から楽しんでいる。
- 毎月2回開催されている「居酒屋とかち」。お酒やおつまみを楽しみながら、家族やスタッフとリラックスした団らんを過ごす。
- 通所リハビリテーションの畑で収穫した小豆を、通所利用者とスタッフとで豆落としている様子。この後お汁粉と赤飯を作り、みんなで味わった。